

ちばの里山 LIFE 体験交流事業実施報告書 (9)

主催：千葉県

企画運営：NPO 法人ちば里山センター、NPO 法人南房総リパブリック

題名	エコリノベーションワークショップ③「南房総のある暮らしのつくり方」
日時	平成 29 年 1 月 14 日 (土) ・1 月 15 日 (日)
会場	南房総市上滝田
出席者	参加者 32 名 (1 月 14 日 29 名、1 月 15 日 31 名) スタッフ 14 名 (ちば里山センター2 名、南房総リパブリック 12 名) 講師 4 名、千葉県森林課 1 名
内容	<p>1 月 14 日</p> <p>9:30 挨拶・ワークショップオリエンテーション、作業班分け</p> <p>10:00 ラジオ体操、作業開始</p> <p>12:00 昼食・ランチレクチャー</p> <p>レクチャー①「南房総エコリノベについて」 南房総リパブリック 内山 章</p> <p>レクチャー②「里とつながる新しい暮らし」 東北芸術工科大学教授 竹内 昌義</p> <p>13:00 作業分担組み換え、作業開始</p> <p>15:30 作業中断 (降雪による路面凍結回避のため)</p> <p>16:00 移動開始、宿泊場所へ</p> <p>1 月 15 日</p> <p>9:30 挨拶・ワークショップオリエンテーション、作業班分け</p> <p>10:00 ラジオ体操、作業開始</p> <p>12:00 昼食・ランチレクチャー</p> <p>レクチャー③「南房総の里山」 南房総ほんまる農園 本間 秀和</p> <p>13:00 作業分担組み換え、作業開始</p> <p>16:00 作業終了</p> <p>16:30 作業内容シェア</p>
報告	<p>1 月 14 日 9 時 30 分、29 名の参加者が集まり、南房総市上滝田にある古民家を会場とする NPO 法人南房総リパブリックで行う「D I Yエコリノベーションワークショップ」が仕上げの 2 日間を迎えた。</p> <p>馬場理事長が「ケガの無いように、楽しんでください」と挨拶。これまでの作業内容の進行状況をオリエンテーション後、ラジオ体操で身体をほぐし、作業に取り掛かった。作業にあたって大工の忍田さんがインパクトドリル・ドライバーと手ノコギリの利用方法で注意すべき点を実演した。ビス打ち込みの際、割れない工夫は？との参加者からの質問に、木目に直行してビスを打つこと、材料に対して力がかからないように、と細かい注意事項が伝えられた。</p> <p>先週に引き続き障子、床、天井の断熱施工、ウッドデッキの天板差し替えのほか、耐火レンガ仕様のかまどを設置する作業が加わった。</p>

参加者は4チームに分かれた。天井は古い天井板をはがしたところに羊毛とグラスウールを敷き詰め、床はスタイロフォーム敷き詰めが終わった芯の上に気密シートを貼り、スギ板のフローリング作業に掛かった。障子は先週作業で残った6枚の断熱施工を始めた。

ウッドデッキは天板張替えに向けて、やすり掛け作業から始まった。耐熱かまど設置は地固め、水平出し、レンガ積み、モルタル塗布作業が行われた。裏山では小学生がノコギリでヒノキの伐倒を体験した。

12時になって全員和室に集まり、南房総リパブリックの内山さんから、先週のふりかえりと断熱施工の品質についてレクチャーがあった。天井材にした羊毛とグラスウール、断熱障子に使ったツインポリカーボネートの材質についてスライドを使って説明した。

次に竹内昌義氏から「里とつながる新しい暮らし」と題するランチレクチャーがあった。国の示す2030年までのCO2削減目標約4割（建築部門）と、ヒートショックを主因とする救急搬送の件数増加の現状を踏まえて、森を中心とした循環型社会の必要性、事例として、オーストラリアや山形でのエコハウス、橋の木材利用について示した。

2020年のトップランナー基準が義務化されるが、日本の住宅の39%にあたる無断熱の住宅4750万戸こそエコリノベーションの対象、とエコリノベーションの必要性を説いた。

昼休みに滑車とチルホールを使ったヒノキの立木伐採を見学した。チェーンソーの刃が入るとまもなくヒノキは倒れ、参加者から驚きの声が漏れた。

午後、作業シフトをチェンジし、障子、天井、床の断熱施工、耐熱かまどの作業を続行した。

昼過ぎから降り始めた雪は14時過ぎには積雪に変わったため、足回りの不安を心配し、車を宿泊場所へ移動させた。

1月15日9時30分、31名の参加者で前日の作業を続行した。朝のミーティングでは前日の作業工程の説明、チームが編成され、ラジオ体操の後作業が始まった。

床断熱、障子断熱、天井断熱、ウッドデッキの天板貼り、耐熱かまどの製作作業が続いた。天井にはモンゴルの羊毛とグラスウールが敷き詰められ天井断熱が完成した。床は杉板貼りを続行し、障子はポリカーボネート貼りが終わり、棧の組み付けが行われた。

12時には「南房総ほんまる農園」の本間秀和氏が「南房総の里山」と題するランチレクチャーで、「里山の生態系サービスが変化してきた点から、自律分散型で農を繋いできた人、農村環境に興味のある都会の人たちが、都市と農村を連携する試みをしながら里山を残していけたらと思っている」と述べた。

13時から作業を継続した。断熱障子は障子紙の貼り作業が急ピッチで行われ完成した。床はフローリング材の杉板がスキマなく貼られ完成した。ウッドデッキは天板が貼り終わった。

終了時に馬場理事長が「誰にもケガがなく終わることができたのがうれしい」とし、主催者＝県森林課の澤口副主査が「役所だけではできない出会いを作ってくれた。ありがとうございました」と挨拶した。

参加者は「一つのことをみんなでやり遂げることができた」、「初めて道具を握って完成に結びついた」と感想を述べた。

南房総地区に二地域居住、Uターン居住、そして将来居住を希望する参加者が、半数近くを占めた。休憩時に、連絡を取り合い、次のDIYの予定を決める様子も見られ、エコリノベーションの活動が動き始めたのを感じた。ワークショップでは、エコリノベーションの基礎理論と実作業の乖離に戸惑いながらも、仲間と連携できたこと、作業の楽しさが印象深く残った4日間ではなかったか、と感じられた。

添付資料（写真）



インパクトと手ノコの指導



障子紙がはがれました



ビス止めも順調に



天板のサイズを合わせる



レンガを置いてかまどを作る



天に羊毛を敷き詰め断熱



スタッフ集合



15日朝、大きく背伸びして



小学生も立木伐採



本間さんのランチレクチャー



姿を現したかまど



断熱障子に取り組む澤口さん



ウッドデッキが完成



馬場理事長のあいさつ



ワークショップを終えて集合